USHIO

第59期

株主通信

[2021年4月1日～2022年3月31日]
2022年6月発行

CONTENTS

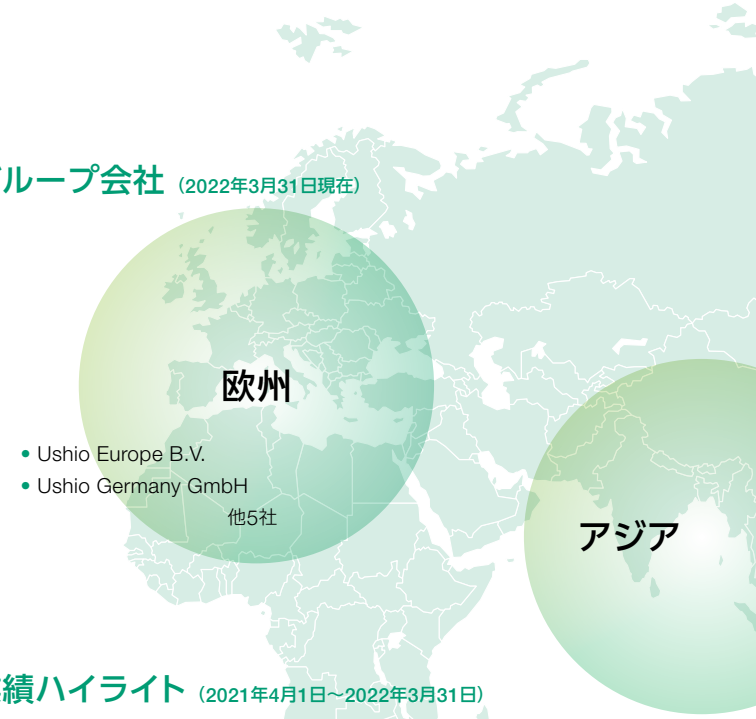
Ushio Now!	P2
社長メッセージ	P4
お知らせ	P7
事業の概況	P8
Topics	P10
決算の状況	P12
株主さまとともに	P14

Ushio Now!　ウシオの今

ウシオとは

1964年に産業用光源メーカーとしてスタートしたウシオは、新光源の開発、独自の光学技術の開発・応用に努め、ユニットや装置、システム、さらには光のソリューションを提供する企業へと発展してきました。その光技術は、「あかり」の領域だけでなく、産業や科学技術の先端分野で「エネルギー」として幅広く利用され、数多くの「世界シェアNo.1」製品を誕生させるとともに、今日では、バイオや農業、医療、環境をはじめとした、新しいビジネスフィールドを開拓しています。

グループ会社（2022年3月31日現在）



ウシオのマーケット

Industrial Process

半導体、フラットパネル、精密機器、電子部品、光化学、印刷、産業機器など

Visual Imaging

デジタルシネマ／3D、プロジェクション・マッピング、バーチャルリアリティー(VR)／シミュレーション、監視／制御用映像表示システム、プロジェクター用光源、一般／商業施設用照明、景観照明・演出、ステージ／スタジオ照明・演出、オフィス・ドキュメント用光源など

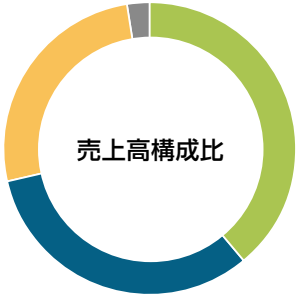
Life Science

医療、自然／衣食住環境、農業、セキュリティー、エネルギー、宇宙開発など

業績ハイライト（2021年4月1日～2022年3月31日）

売上高
1,488億円

営業利益
130億円



光源事業	38.9%
光学装置事業	32.5%
映像装置事業	26.3%
その他	2.3%

本資料では、切捨てによる億円単位で表記しています。

日本

- ウシオ電機株式会社
- ウシオライティング株式会社
- 株式会社ジーベックス
- 株式会社アドテックエンジニアリング

他5社

北米

- Ushio America, Inc.
- Christie Digital Systems USA, Inc.
- Christie Digital Systems Canada, Inc.

他11社

- Ushio Hong Kong Ltd.
- Ushio Taiwan, Inc.
- Ushio Philippines, Inc.
- Ushio（Suzhou）Co., Ltd.
- Ushio Asia Pacific Pte. Ltd.
- Ushio Korea, Inc.
- Ushio Shanghai, Inc.
- Ushio Shenzhen, Inc.

他13社

光源事業

露光用UVランプは、巣ごもり需要によるモバイル・タブレット向け液晶パネル需要の増加、世界的な半導体需要の増加により稼働率が上がり、リプレイスランプの販売が増加しました。シネマプロジェクター用及びデータプロジェクター用ランプ、固体光源は新型コロナウイルス感染症の影響から需要が回復し、販売が増加しました。

光学装置事業

5Gの実用化やIoT・AI進展に伴うデータセンター向けサーバー需要の高まりなどから、各種露光装置の販売が増加しました。EUVリソグラフィ技術進展による次世代半導体の量産ニーズの高まりにより、EUVリソグラフィマスク検査用EUV光源の販売が増加しました。フラットパネルディスプレイ市場においては、中国での設備投資継続により関連する装置の販売が増加しました。

映像装置事業

シネマ分野では、新型コロナの影響が長期化したことから、本格的な需要の戻りはまだ先となるものの、段階的な回復によりデジタルシネマプロジェクターの販売が増加しました。一般映像分野においても、イベント回復等により欧米市場で緩やかに回復が進み、映像関連装置の販売が増加しました。

	光源事業 2021.3 ▶ 2022.3	光学装置事業 2021.3 ▶ 2022.3	映像装置事業 2021.3 ▶ 2022.3	その他 2021.3 ▶ 2022.3
売上高*	457億円 ▶ 578億円	389億円 ▶ 483億円	310億円 ▶ 391億円	27億円 ▶ 34億円
セグメント利益・損益	32億円 ▶ 82億円	8億円 ▶ 46億円	△34億円 ▶ △0億円	0億円 ▶ 1億円

* 外部顧客への売上高を記載しています。

社長メッセージ

中期経営計画3年目は
最重要KPIである営業利益率の野心的目標に向け
着実に進展してまいります

代表取締役社長

内藤宏治

2022年3月期の業績について

中期経営計画（以下、中計）の2年目となる2022年3月期（以下、当期）の売上高は前期比25.5%増の1,488億円、営業利益は130億円（前期は7億円の利益）、経常利益は同346.0%増の151億円、親会社株主に帰属する当期純利益は126億円（前期は6億円の損失）となりました。

売上高は、新型コロナウイルス感染症拡大（以下、新型コロナ）による影響を受ける前の2020年3月期の売上高1,590億円には届かなかったものの、最重要KPIの営業利益及び営業利益率については、新型コロナによる影響からの回復及び有望製品の成長と構造改革等の推進により体質改善が進み、2020年3月期の営業利益66億円、営業利益率4.2%に対し、当期の営業利益は64億円増収し130億円、営業利益率は4.6%ポイント改善し8.8%となりました。（図1参照）

図1　当期の実績

	実績	当初計画値	差異	2020年3月期	差異
営業利益	130億円	50億円	+80	66億円	+64
営業利益率	8.8%	3.7%	+5.1p	4.2%	+4.6p
売上高	1,488億円	1,350億円	+138	1,590億円	△101

当社グループの事業環境を見渡すと、エレクトロニクス分野では、半導体や電子デバイス及びプリント基板市場の需要拡大に伴い、最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置やプリント基板向けダイレクトイメージング露光装置及びEUVリソグラフィマスク検査用EUV光源の販売が増加しました。また、前期に新型コロナの影響を大きく受けたビジュアルイメージング分野では、全世界での経済活動再開とともに、映画館や関連する商業施設等の営業も再開し、稼働の回復が進んだことから、設備投資意欲が回復傾向にあり、シネマプロジェクター用ランプや映像装置の販売が増加しました。また、構造改革や働き方改革の推進により固定費の削減が進み、収益性が大きく改善しました。

2023年3月期の見通し／中計最終年度に向けて

中計最終年度の2023年3月期の業績は、売上高は前期比14.2%増の1,700億円、営業利益は同30.1%増の170億円、経常利益は同21.7%増の185億円、親会社株主に帰属する当期純利益は同11.1%増の140億円と増収増益を計画しており、中計の野心的目標である営業利益率10%を目指してまいります。（図2参照）

中計期間（2021年3月期～2023年3月期）の営業利益増減シナリオにおいては、当初計画に対し、概ね計画通りに進捗しております。具体的には、アクションプラン戦略投資や為替変動及びビジネスリスク（部材調達不足等による影響）の発生などの変化はあったものの、新型コロナからの自律回復やアクションプラン増収（有望製品の成長）及び構造改革は概ね計画通りに進捗しており、2023年3月期の見通しは、営業利益170億円、営業利益率は野心的目標である10%に向け着実に進展しております。（図3参照）

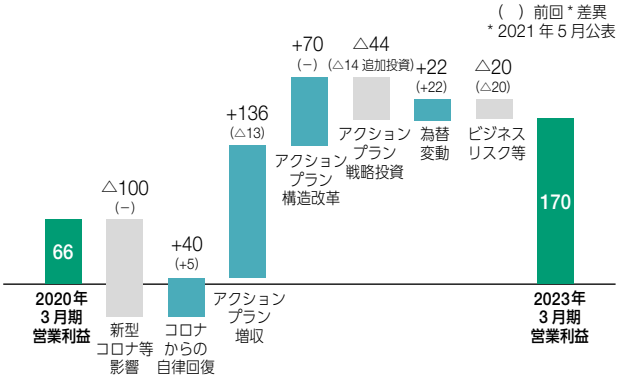
各事業セグメント別にご説明いたします。

光源事業は、中計前の2020年3月期の営業利益率10.3%に対し、2023年3月期の営業利益率15.6%を見込んでおり、

図2　2023年3月期の見通し

		最新見通し	必達目標	野心的目標
営業利益		170億円	140億円	190億円
営業利益率		10.0%	8%超	10%超
売上高		1,700億円	1,500億円超	1,700億円超
為替レート（円）	米ドル	120	105	
	ユーロ	130	125	

図3　営業利益 想定増減益見込み（2020年3月期→2023年3月期）



野心的目標を上回る見込みです。今後の成長事業と位置付けた環境衛生事業（Care222®関連製品）は想定を下回り課題を残すも、「防ぐ、攻める」戦略の着実な進捗により収益力が大幅に改善しました。

光学装置事業は、中計前の2020年3月期は赤字を計上しましたが、2023年3月期の営業利益率は11.2%と野心的目標を上回る大幅な改善を見込んでおります。有望製品であるEUVリソグラフィマスク検査用EUV光源は、順調に立ち上がったものの、2023年3月期は一時的な調整局面により計画を下回る見込みです。一方で、ICパッケージ基板市場の拡大等に伴い、最先端ICパッケージ基板向け投影露光装置やダイレクトイメージング露光装置の販売は想定を上回って推移しており、投影露光装置においては、将来の需要拡大に対応するために、更なる生産能力増強を2022年5月に発表するなど、拡大傾向が継続する見込みです。

映像装置事業は、中計前の2020年3月期の営業利益率1.5%に対し、その後、新型コロナの影響を大きく受けつつも、徐々に回復傾向にあり、2023年3月期の営業利益率は2.5%を見込んでおります。映像関連市場の需要は、新型コロナから回復傾向にあり、また構造改革等の実施による体質改善が進みました。しかしながら、2023年3月期は、新たな開発投資や部品不足の影響を受け、営業利益及び営業利益率は改善傾向にあるものの、必達目標には届かない見込みです。

また、中計において、従来の自立型から連帯型の連峰経営へと方針を大きくシフトチェンジし、全社の連帯強化を通じて全体最適を実現する「掛け算経営」を進めております。そのシフトチェンジを軸に、グループ全体を束ねるフレームワーク「束ねる戦略」に取り組んでまいりました。当期の成果としては、新型コロナからの早期自律回復の実現や構造改革の着実な推進及びESG経営課題の明確化などが挙げられます。引き続き、ESG経営推進に注力するとともに、2024年度3月期を初年度とする次期中計策定に向け準備を進めてまいります。

最後に株主還元についてご説明いたします。当期は業績の順調な回復とともに戦略投資を実行してまいりました。2023年3月期は、将来の戦略投資と株主還元をバランスよく推進していく考えです。株主還元については、当期の1株当たり配当金を前期から24円増配し50円とするとともに、2023年3月期についても、50円を維持する考えです。また、自社株買いについても、2022年5月～12月の期間で総額50億円・300万株（上限）の取得を予定しております。今後も安定かつ継続的な株主還元強化を進めてまいります。

ウシオグループ全員で、中計の目標達成に着実に邁進していくとともに、さらにその先の中長期での持続的成長に向けた道筋を明確化し、ステークホルダーの皆さまのご期待に応えていけるよう進んでまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

中計2年目の振り返りと3年目（最終年度）の見通しに関する詳細はこちらをご覧ください。
https://www.ushio.co.jp/documents/ir/library/plan/ushio_plan2022_j.pdf

お知らせ

当社Webサイト「投資家情報」ページをリニューアルしました。

ウシオ電機 投資家情報
https://www.ushio.co.jp/jp/ir/

2022年5月、当社はオフィシャルWebサイト「投資家情報」ページをリニューアル。当ページはご利用いただく個人投資家の皆さまにとって、より見やすく、知りたい情報にアクセスしやすい構成やデザインに生まれ変わりました。当ページは、個人投資家の皆さまとの重要なコミュニケーションツールの一つとして捉え、コンテンツの充実や機能向上に努めてまいります。

Renewal Point
01

個人投資家の皆さま向けコーナーを新設

シンプルでわかりやすさを意識した構成にすることで、利便性の向上を図りました。

「個人投資家の皆さまへ」ページの情報整理

「ウシオ電機って?」「投資対象としてのウシオ」の2部構成で情報を整理し、よりアクセスしやすいページになりました。
https://www.ushio.co.jp/jp/ir/investor/

Renewal Point
02

コンテンツの新設

当社のビジネスをより身近に感じていただけるコンテンツを拡充しました。

Newコンテンツ「生活の中のウシオ」

社会や日常生活の中にある様々なウシオの「光」のソリューションをご紹介しています。

https://www.ushio.co.jp/jp/ir/investor/life/

Renewal Point
03

IRメール配信登録機能を追加

個人投資家の皆さまにもIRニュースをいち早くお知らせできるよう機能を追加しました。

ここをクリック

IRメール配信

ご登録いただいた方には、IRニュースリリース時に電子メールにてお知らせします。
ご登録お待ちしています。
https://www.ushio.co.jp/jp/ir/

事業の概況

事業環境

エレクトロニクス分野

IoTや5Gなどの進展を背景に、新規投資や高稼働が継続

フラットパネルディスプレイ（FPD）

投資主体は液晶からOLEDに移行も、巣ごもり需要により、モバイルやモニター向けなどの液晶パネル生産が好調

半導体ICパッケージ・プリント基板等

IoT、5G進展に伴い需要の増加及び技術革新により高稼働かつ設備投資等旺盛

ビジュアルイメージング分野

新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の影響から回復傾向

シネマ分野

映画館の再開・稼働回復が遅れていた欧米で段階的な回復

一般映像分野

中国は新型コロナ前の水準に近いレベルまで回復。欧米は緩やかな回復

OA分野

新型コロナ影響から需要回復も、セットメーカーの部材不足による影響あり

光源事業

放電ランプ／LED・LD

- 半導体、FPD、電子部品製造装置用光源
- シネマプロジェクター用、データプロジェクター用、照明用及びその他産業用光源

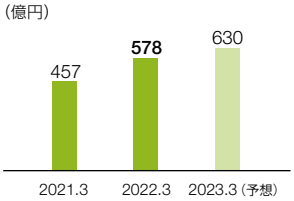
ハロゲンランプ

- OA機器用光源
- 産業用ヒーターランプ
- 照明（商業施設、舞台・スタジオ、特殊照明など）

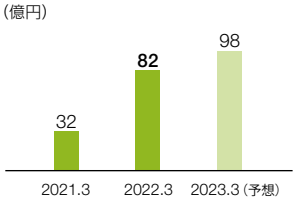
当期の業績

- 放電ランプ／LED・LD
  UVランプは販売が増加（液晶パネル需要）
  半導体、電子部品向けは堅調に推移（5G、IoTの進展）
  シネマプロジェクター用、データプロジェクター用ランプは新型コロナの影響から販売は回復傾向
- ハロゲンランプ
  OA機器は新型コロナから需要回復も、セットメーカーの部材調達影響により2021年3月期と同水準。一方半導体需要増によりヒーター用ランプの販売増加

売上高



セグメント利益



今後の見通し

UVランプは液晶パネルの巣ごもり需要が一服し、需給バランス調整の動き。半導体、電子部品向けは堅調に推移
シネマプロジェクター用ランプは新型コロナから緩やかに需要回復が継続
Care222®（抗ウイルス・除菌用紫外線照射技術）関連製品は、認知度向上が進むことにより引き合い・受注が増加見込み

2023年3月期通期予想

（億円）

	2022.3（実績）	2023.3（予想）	増減	%
売上高*	578	630	+51	+9.0
営業利益	82	98	+15	+18.2
営業利益率（%）*	14.3	15.6	+1.2p	—

* 外部顧客への売上高、外部顧客への売上高に対する営業利益率を記載しています。

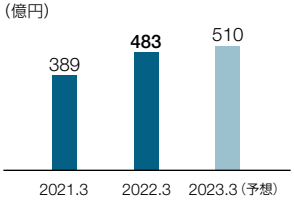
光学装置事業

- 半導体、フラットパネルディスプレイ(FPD)、電子部品製造用各種光学装置(露光装置、光洗浄ユニット、光硬化装置など)
- EUVリソグラフィマスク検査用EUV光源
- 紫外線治療器など医療機器

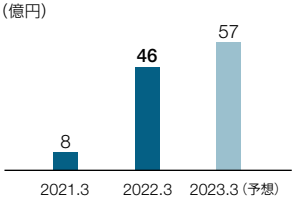
当期の業績

投影露光装置、直描式露光装置は販売が増加(5G、IoTの進展)
EUVリソグラフィマスク検査用EUV光源の販売が増加(次世代半導体の量産ニーズ増加)
液晶関連装置は販売が増加(中国向け投資)

売上高



セグメント利益



今後の見通し

半導体・電子部品需要の増加に伴い装置需要も堅調に推移
最先端ICパッケージ基板及びプリント基板向け露光装置は高水準で推移
EUVリソグラフィマスク検査用EUV光源は2023年3月期はTCO低減要求により導入時期が後ろ倒し及び部材の長納期化による一時的な調整局面に入るも、中長期的な市場成長は継続

2023年3月期通期予想

(億円)

	2022.3(実績)	2023.3(予想)	増減	%
売上高*	483	510	+26	+5.4
営業利益	46	57	+10	+23.4
営業利益率(%)*	9.5	11.2	+1.6p	—

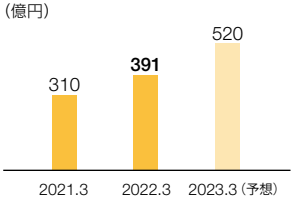
映像装置事業

- デジタルシネマプロジェクター(DCP)
- 一般映像用デジタルプロジェクター、コントロールルーム、シミュレーター、デジタルサイネージ、バーチャルリアリティーシステム、プロジェクション・マッピング用プロジェクター

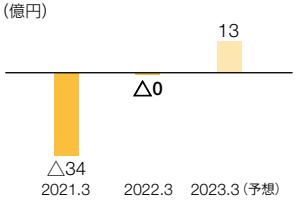
当期の業績

シネマ、一般映像市場ともに、新型コロナの影響から各国の経済再開による稼働回復で設備投資が改善し、販売が増加

売上高



セグメント利益・損失



今後の見通し

シネマ、一般映像ともに新型コロナからの段階的な需要回復傾向も、2023年3月期は部材不足による影響が拡大見込み。なお、2024年3月期以降はデジタルシネマプロジェクターの置き換え需要が本格化する見込み

2023年3月期通期予想

(億円)

	2022.3(実績)	2023.3(予想)	増減	%
売上高*	391	520	+128	+32.7
営業利益・損失	△0	13	+13	—
営業利益率(%)*	△0.1	2.5	+2.6p	—

* 外部顧客への売上高、外部顧客への売上高に対する営業利益率を記載しています。

Topics　2021年12月以降のニュースをサマリーでご紹介します。

2021年 → 2022年

12月

- ミネベアミツミと抗ウイルス・除菌用紫外線照射装置を共同開発

USHIO × MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

1月

- 「Care222DAY」開催のお知らせ
  →2月21、22日「Care222DAY」を開催
- 222nm紫外線殺菌・ウイルス不活化技術「Care222®」で、第10回技術経営・イノベーション大賞「科学技術と経済の会 会長賞」を受賞

3月

- 「Care222®」の新光源モジュールを販売開始

Pick Up

分割投影露光装置の更なる生産能力増強

当社は最先端ICパッケージ基板の更なる需要増加に対応するため、分割投影露光装置(UX-5シリーズ)の生産能力をさらに約2倍に引き上げる設備投資を決定しました。

今回の投資は2019年及び2021年に続くものです。IoTの進展に伴い、大容量かつ高速でのデータ処理に対応したデータセンター向けサーバーの需要等が想定を上回っており、より高い解像度や重ね合わせ精度が求められるICパッケージ基板の需要も増加しています。そこで、同基板向け露光装置の更なる増産に向けた投資が必要と判断しました。

今後もIoTの進展による便利・快適な社会の実現に向け「光」で貢献していきます。

分割投影露光装置(UX-5シリーズ)

● ウシオ電機に関するニュース　● サステナビリティニュース　● Care222®に関するニュース

4月

- ブラックラムズ東京と「オフィシャルヘルスケアパートナー」契約を締結
- 手術部位に対する222nm紫外線照射の安全性についてウサギを用いて検討
- FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexの構成銘柄に選定
- 「健康経営優良法人2022（大規模法人部門）」に認定

USHIO × BlackRamsTokyo

2022 健康経営優良法人 Health and productivity

5月

- **分割投影露光装置の更なる生産能力増強** Pick Up
- **取締役の異動に関するお知らせ** Pick Up
- 抗ウイルス・除菌用紫外線照射装置「Care222® iシリーズ」の新ラインナップを販売開始

Pick Up

取締役の異動に関するお知らせ

当社では、幅広い分野での経験や知見を有する社外取締役を選任しており、2022年6月に新たに2名の社外取締役を迎え入れました。社外取締役の選任を通じ、多様な知見を経営に一層反映させ、2030年の長期ビジョン達成に向けてガバナンスの強化を図ります。

社外取締役
松﨑 正年

当社では初のメーカー出身の社外取締役として、グローバル企業に長く携われた経験や「ESG経営」の観点での助言に期待しています。

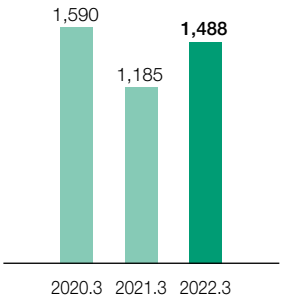
社外取締役（監査等委員）
有泉 池秋

経済や国際金融など専門的な知見を活かした助言への期待に加え、ダイバーシティを重視する観点から選任いたしました。

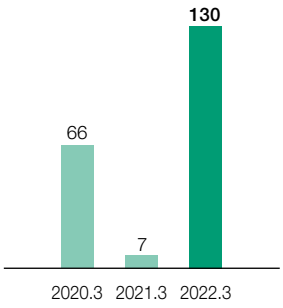
決算の状況

売上高・損益の推移 (億円)

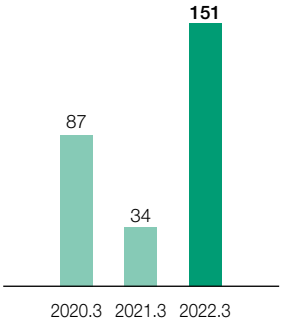
売上高



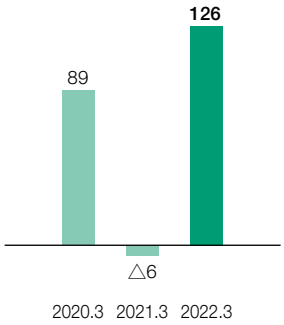
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益・損失



CFOからのメッセージ

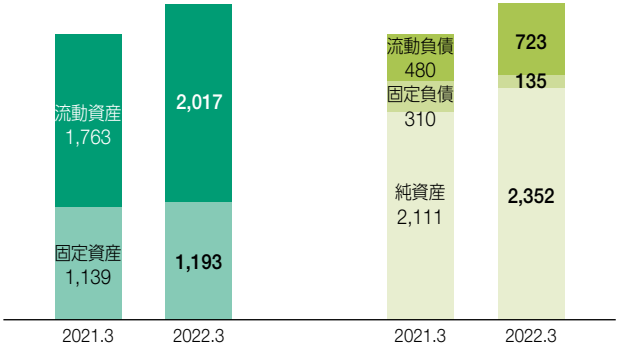
中期経営計画(以下、中計)では、「防ぐ、攻める、束ねる」戦略により、収益構造転換の基礎固めに再挑戦しております。中計2年目(2022年3月期)は、新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)の影響からの回復に加え、「攻める戦略」の積極的な施策推進により、有望製品が着実に成長しました。また、「防ぐ戦略」における抜本的な構造改革、原価低減及び経費コントロールなどの各施策が進展したことにより、体質改善が進みました。「束ねる戦略」では、新型コロナ等により生じたサプライチェーン課題による影響を最小限に留めるなど新型コロナからの早期自律回復やグループ資産の有効活用によるコスト低減が進みました。これら「防ぐ、攻める、束ねる」戦略の成果が着実に表れたことにより、営業利益率は当初の計画を大きく上回る8.8%を達成しました。また、ESG経営の推進として、「2030年の目指す姿」に向けた課題を5つの経営のフォーカスとして明確化し、それぞれの課題に対するKPIを策定し公表いたしました。今後は更なるESG経営推進の強化と、環境の変化に柔軟に対応できる体制づくりを進め、持続的な成長を支えるより強固な経営基盤を構築してまいります。

中計期間の営業キャッシュ・フローは250～350億円を想定しておりましたが、業績の順調な回復により2年間で計画を上回る361億円の営業キャッシュ・フローを創出しました。一方「防ぐ、攻める、束ねる」戦略で約550億円のキャッシュアウトを計画しており、こちらも順調に進んでおります。

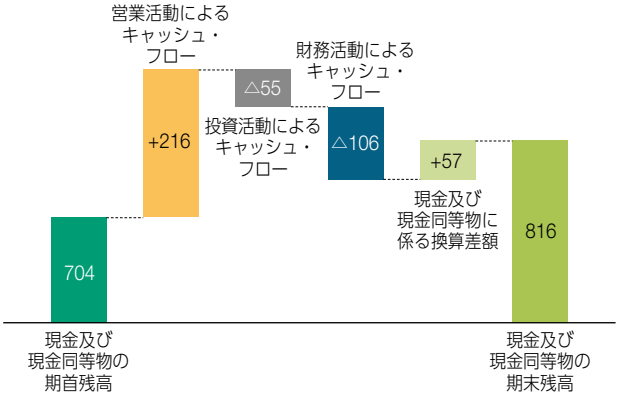
決算情報の詳細は当社ホームページに掲載しています。
https://www.ushio.co.jp/jp/ir/

貸借対照表、キャッシュ・フロー（億円）

資産の部／負債・純資産の部



キャッシュ・フロー



中計期間の配当方針は、下限配当として年間1株当たり26円を維持することとしておりますが、順調な施策進捗と業績回復を背景に、前期より24円増配し、1株当たり50円とすることといたしました。なお、2023年3月期も1株当たり50円の予定です。自社株買いは経営環境の変化に対応し機動的に実施する方針で進めておりますが、このたび50億円・300万株（上限）の自己株式取得を発表しました。詳しくは、2022年5月11日のリリースをご覧ください。

引き続き、長期的な視野に立った新製品・新技術などの研究開発投資や生産性向上のための設備投資、及び成長事業分野への投資等、成長戦略実現の原資として積極的にキャッシュを活用するとともに、株主還元の強化に向けたキャッシュアロケーションを進めてまいります。

取締役
常務執行役員
CFO
経営統括本部長
朝日 崇文

株主さまとともに

株式の状況（2022年3月31日現在）

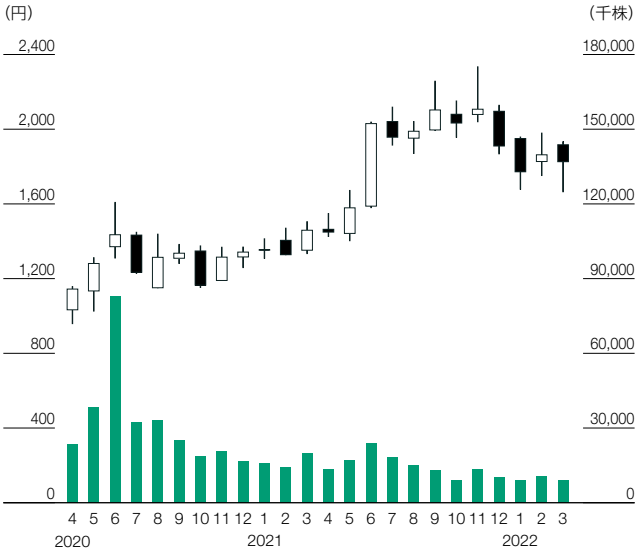
発行済株式総数	127,000,000株
株主数	16,712名

大株主の状況（上位10位）

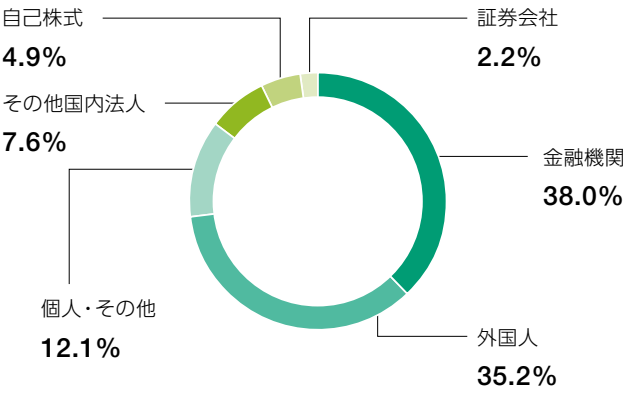
株主名	株式数（千株）	持株比率（%）
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	19,178	15.87
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	6,368	5.27
株式会社りそな銀行	6,031	4.99
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	4,274	3.53
株式会社三菱UFJ銀行	4,248	3.51
ビービーエイチルクス フイデリテイ フアンズ グローバル テクノロジー プール	3,396	2.81
牛尾治朗	2,665	2.20
RBC IST 15 PCT LENDING ACCOUNT ― CLIENT ACCOUNT	2,541	2.10
朝日生命保険相互会社	2,450	2.02
公益財団法人ウシオ財団	2,400	1.98

※ 上記のほか、自己株式が6,175千株あります。なお、自己株式6,175千株には、役員向け株式報酬信託制度に係る信託が所有する当社株式234千株を含んでおりません。
※ 持株比率は、自己株式6,175千株を控除して計算しております。
※ 大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式名義人となっているものです。また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を受けている口座を指します。

株価の動き／株式売買高



株式の分布状況



株主メモ

証券コード	6925
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会　毎年3月31日 期末配当　　毎年3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。 なお、中間配当制度は採用しておりません。
1単元の株式数	100株
公告掲載URL	http://www.ushio.co.jp/kokoku ※ やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人及び特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
〈郵便物送付先〉	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〈電話照会先〉	**0120-782-031** （フリーダイヤル） 受付時間　9:00～17:00（土日休日を除く）

〈ホームページURL〉
https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/

〈よくあるご質問（FAQ）〉
https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal

各種お手続きに関するお問合せ先

お問合せの内容	一般口座 （証券会社の口座に記録された株式）	特別口座 （証券会社に口座のない株式）
• 住所・氏名等の変更 • 単元未満株式の買取請求 • 配当金の受取方法の指定 • 相続	お取引の証券会社	三井住友信託銀行
• 一般口座への振替	—	
• 支払期間経過後の配当金	三井住友信託銀行	

会社概要

設立　1964年3月

資本金　19,556,326,316円

役員 (2022年6月29日現在)

代表取締役社長	内藤　宏治
代表取締役	川村　直樹
取締役	神山　和久
取締役	朝日　崇文
社外取締役	金丸　恭文
社外取締役	橘・フクシマ・咲江
社外取締役	佐々木　豊成
社外取締役	松﨑　正年
取締役(常勤監査等委員)	小林　敦之
社外取締役(監査等委員)	杉原　麗
社外取締役(監査等委員)	須永　明美
社外取締役(監査等委員)	有泉　池秋

従業員数 (2022年3月31日現在)

ウシオ電機本体	1,697名
国内連結子会社	690名
海外連結子会社	2,955名
合計	5,342名

Web

オフィシャルWebサイトもご活用ください

統合報告書(Ushio Report)／日本語版

https://www.ushio.co.jp/jp/ir/library/ushioreport/

投資家情報

社長メッセージや決算資料など、様々な情報を掲載しています。

https://www.ushio.co.jp/jp/ir/

サステナビリティ

環境保全、社会貢献、安全への取り組みなど、様々な情報を掲載しています。

https://www.ushio.co.jp/jp/sustainability/

発行：ウシオ電機株式会社
コーポレートコミュニケーション部
〒100-8150　東京都千代田区丸の内1-6-5
TEL：03-5657-1007　FAX：03-5657-1020
https://www.ushio.co.jp

公式facebook
https://www.facebook.com/ushio.group/

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C005531
www.fsc.org

VEGETABLE OIL INK

この印刷物は、環境に優しい用紙と、ベジタブルインキを使用しています。

2206E①-16930E①